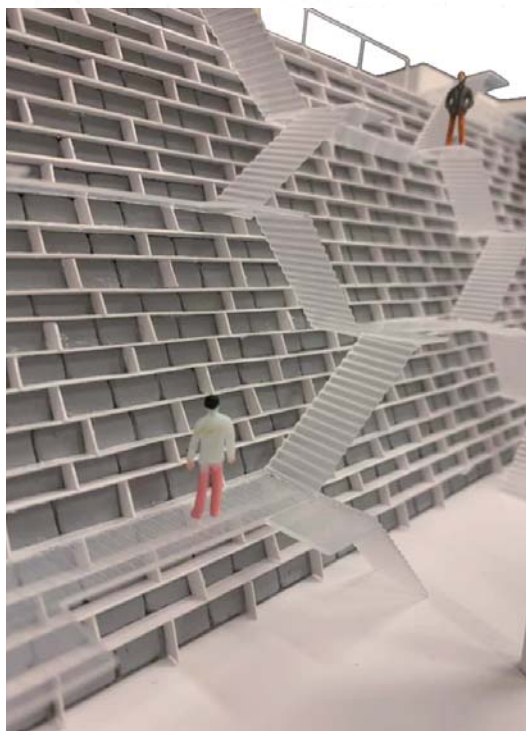


図書館 × 拡張型

身体スケールから石垣スケールへと拡張していく図書館は、石垣を一層大きなものに見せる。

石垣を補強している本棚は「もたれ擁壁」として石垣を支えつつ、遠目には石垣のラインを可視化させ、近づくと、石一つ一つと出会う場となる。

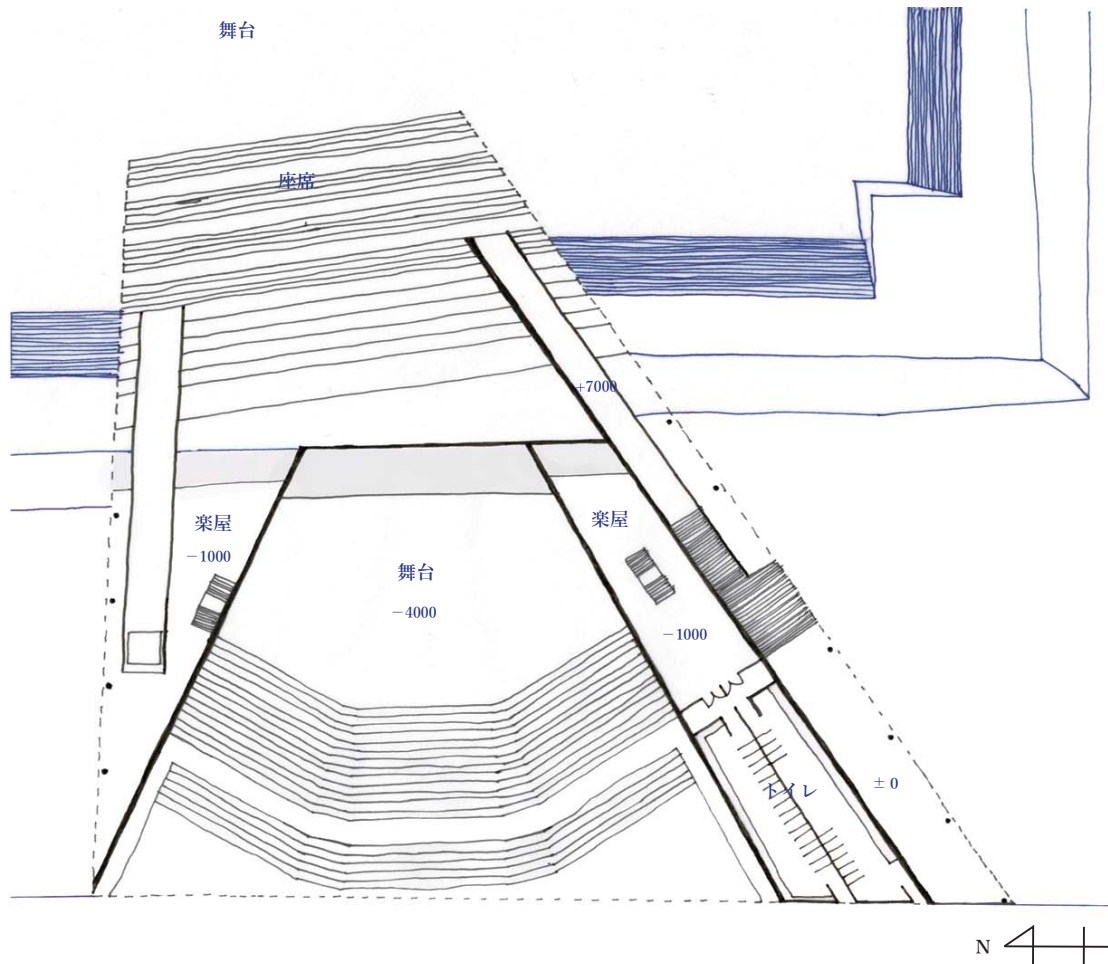
S=1:600



野外劇場 × 集中型

石垣に向かって一点集中させる野外劇場では、石垣が舞台で繰り広げられる様々な演目の背景として、多くの人の心に残る。屋根はゆるやかな階段となって堀の内部へと落ちる。堀内部からは屋根が座席として使われる。

S=1:500



二面性のある舞台



現代の素材である RC 壁が石垣を抑えるように立つことで、石垣へと視線を集中させる。公園へと拡散された石垣は通りすぎる人も引き込んでいく。大きな壁のみで屋根を支えることで、可逆性を担保する。

堀内部へとゆるやかに下がる屋根は、座席にもなっている。その前に立てば、堀内部も舞台空間となる。座席の蹴上げがないことで、奥にある石垣でつくられた階段を望むことができる。

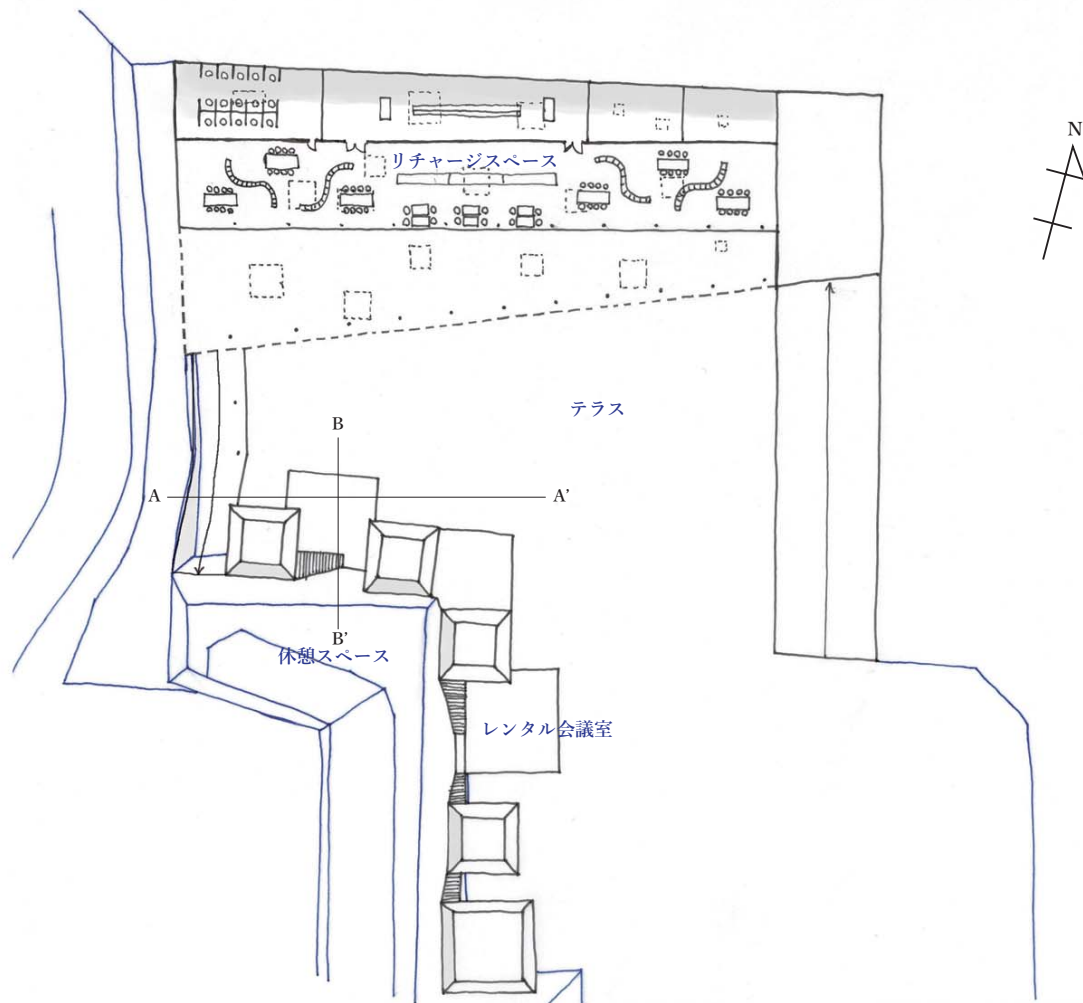
シェアオフィス × 一体型

大きなスロープの下にはシェアできるリチャージスペースがあり、石垣が続くスロープを辿ると、個室がある。

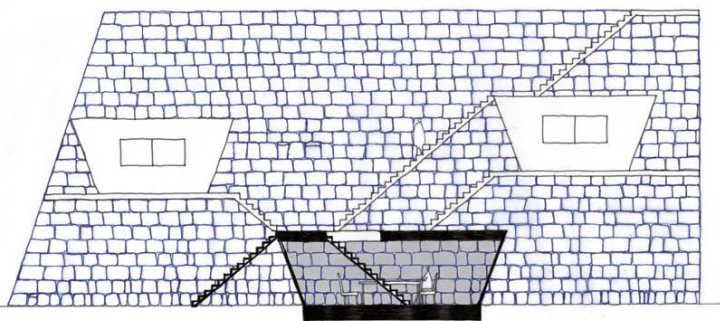
個室は、石垣の勾配を用いた、石垣と一体化する空間であり、切り取られる場所によって様々な表情を持つ石垣が、空間を特徴付ける。

個室を繋ぐ階段は交差し、筋交いのようにはらみを抑える。階段は堀の上まで続き、堀上部の森は休憩スペースとなる。

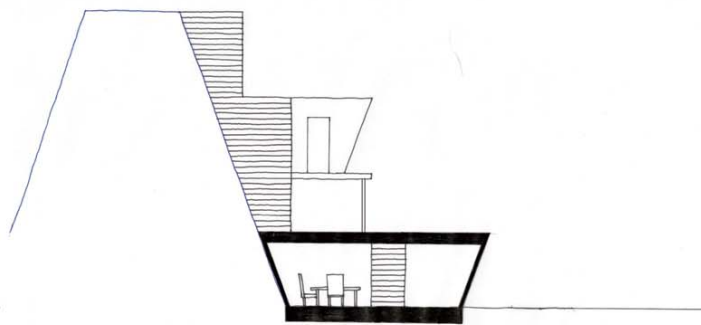
S=1:500



S=1:200

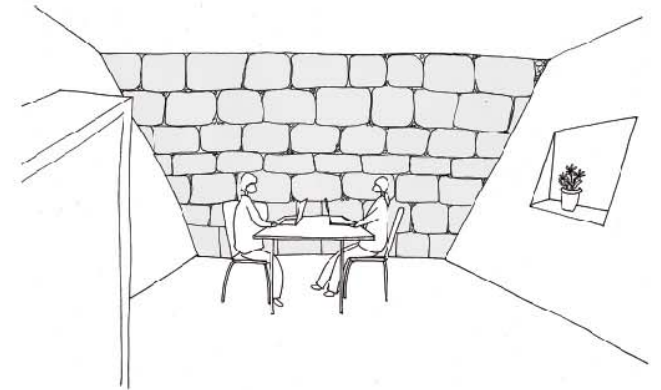
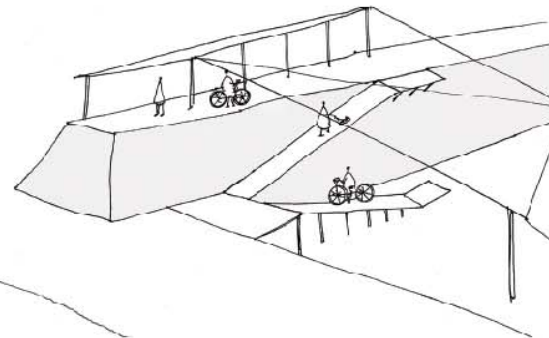
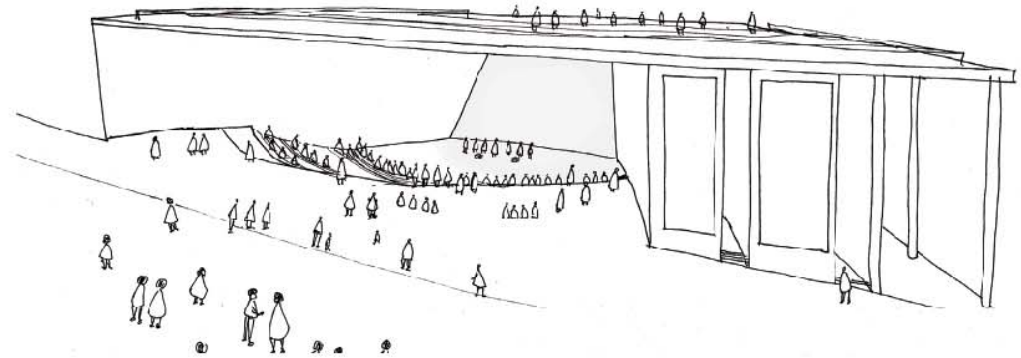
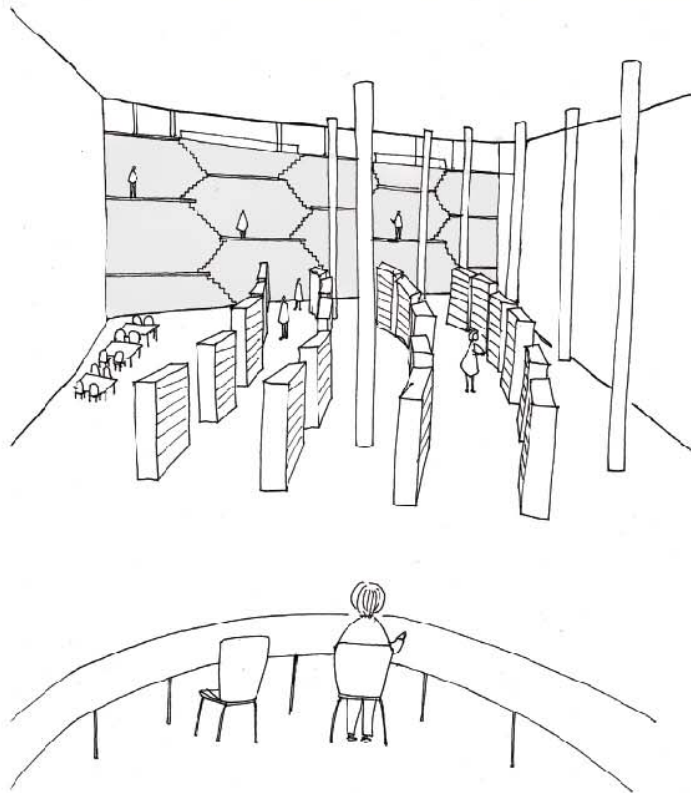
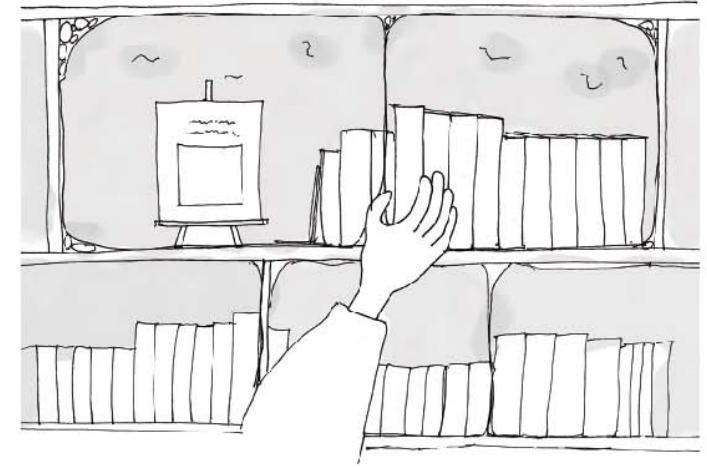
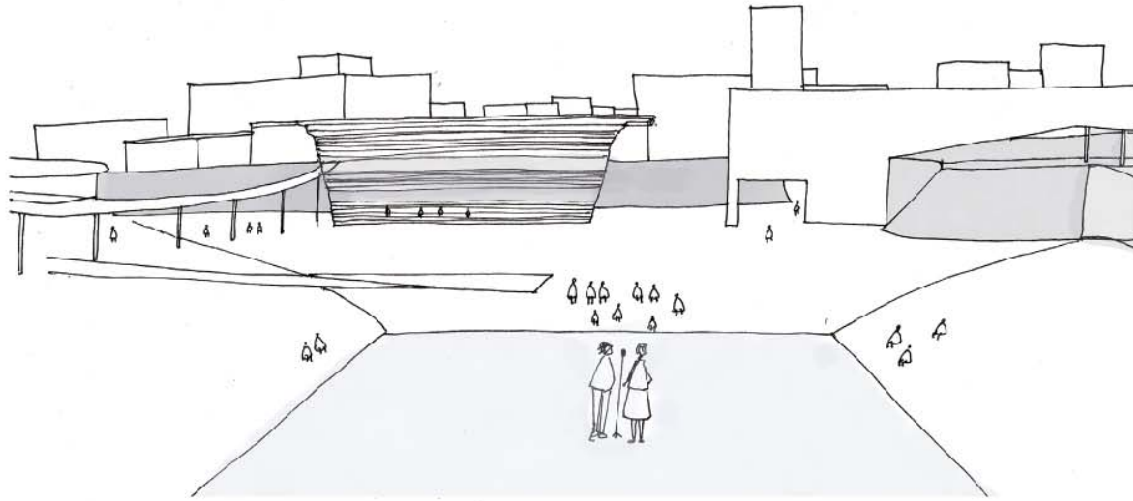


A-A' 断面図



B-B' 断面図





石垣と様々な関係をつくる建築で営まれる個人の経験は、「堀」という大きな骨格で建築がひとつになるように、いつしか都市全体の共通の記憶となる

人間の造り出した大地を基盤とした建築が、堀という歴史的事実を人々の生活と共に後世へと伝えていく